

2026 年 3 月 2 日 上田 勉

第 8 回東日本大震災伝承シンポジウム と 第 11 回全国被災地語り部シンポジウム in 東北に参加して

第 8 回東日本大震災伝承シンポジウム

2 月 28 日、せんだいメディアテーク（仙台市）で行われました。3・11 メモリアルネットワークの主催です。語り部についても様々な伝え方があることを知りました。①漁火の会（岩手県釜石市）では、津波甚句（歌と踊り）で伝えています。②きずな F プロジェクト（宮城県七ヶ浜町）では、紙芝居で子供たちに出前授業をしています。③富岡町 3・11 を語る会（福島県富岡町）では、視覚障害者の人が、手話で伝えています。④いわぬま震災語りの会（宮城県岩沼市）では、小学生が語り部を披露してくれました。

自分えが震災を経験してなくても、身近な人から体験を聞いて、語り部をすることの意義が話されました。誰もが語り部になることが出来るとのことでした。

中川さん（3・11 メモリアルネットワーク専務理事）からは、伝承施設への入館者が減少していること、また多くの伝承施設が財政的に厳しくなっていて、将来の存続に不安を抱えていることが話されました。

第 11 回全国被災地語り部シンポジウム in 東北

3 月 1 日と 2 日、宮城県南三陸町のホテル観洋で行われました。全国から語り部や伝承施設・震災遺構の関係者が参加しました。メインディスカッションでは、釘子明さん（陸前高田語り部くぐこ屋代表）、佐藤敏郎さん（(一社) スマートサプライビジョン理事）、青木淑子さん（富岡町 3・11 を語る会代表）が話しをしました。15 年が経って、被災地に来る人も減少していることが話されました。また、語り部が高齢になるにつれて、次世代への継承の大切さが話されました。

分科会（「過去の災害を知り、命を守る」～体験と歴史を学び、伝えるべきものとは～）では、稲村の火（160 年前、和歌山県）、阪神淡路大震災（31 年前、兵庫県）、能登半島地震（2 年前、石川県）の語り部について話されました。語り部は、自分が体験していなくても、語ることが出来ることが話されました。また、語り部の話を聞いたり、震災遺構を見ることは、実際の体験であって、アーカイブや映像などでは体験できないことが話されました。また、大学生がボランティアサークルや語り部活動に積極的に参加して来ていることが報告されました。

国際セッション（「日本の困難な記憶と記録を国際的な視点から考える」）では、ドイツ（在カナダ）、トルコ、イタリアの人が話しをしました。外国人の皆さんも、自国の震災や日本の被災地や復興について、大きな興味を持っています。また、神戸大学大学院生が、ボランティア活動について発言しました。

最後に、「震災の風化を防ぎ、震災の教訓を伝承するため、全国被災地語り部シンポジウムを継続してまいります。」という趣旨の「全国被災地語り部 南三陸宣言」が拍

手で採択されました。

第8回 東日本大震災伝承シンポジウム
 3.11メモリアルネットワーク 東日本大震災伝承シンポジウム
伝承の思いとチカラを未来へ
 東日本大震災から15年、これまで・いま・これから

参加無料 2026.2.28(土) 13:00~17:00
 仙台メディアテーク / YouTube 配信
 〒980-0821 宮城県仙台市青葉区春日町2-1-1F オープンスタジアム

目的
 東日本大震災から15年、災害犠牲性と被災後の混乱を繰り返さない願いを胸に、地道に展開されてきた最前線の震災伝承活動の歩みを振り返り、日々進化する今の取り組みを共有し、その思いとチカラを未来につなぐためには、何か必要かを考える。

〈語り部等の実演・報告〉
 津波書句 高木 尚
 紙芝居・出前授業 さすねプロジェクト
 映画上映 15年を振り返る 月野 裕子さん/理上 正広
 出演者登壇・コメント 長瀬 真由さん/あすハルカ-震災語り部代表/副代表
 〈バスカルティスセッション〉 長瀬 真由さん / 仙台市立大震災語り部代表/副代表、月野 裕子さん / 仙台市立大震災語り部代表/副代表、神田 真由さん / さすねプロジェクト副代表、神谷 真由さん / 仙台市立大震災語り部代表、木村 紀夫さん / 大震災実行委員会

〈現地参加 申込はコチラ〉
 定員 300名 (事前申込優先)
 〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1-1F
<https://www.living-eb07.com>

〈オンライン 視聴はコチラ〉
 YouTube で Live 配信
 元の QR からご登録ください(申込不要)
<https://www.living-eb07.com>

【第8回東日本大震災伝承シンポジウム (仙台市)】 (2026年2月28日撮影)

第11回 全国被災地語り部シンポジウム in 東北
 2026年3月1日(土)・2日(月)
 会場：南三陸ホテル観洋 および 南三陸町内外
 宮城県本吉郡南三陸町志津川車庫99-17 TEL0226-46-2442
 参加費：無料(要予約)

バスカルティスセッション・分科会・語り部バスツアー等、様々な角度から命を守るためのシンポジウム。
 開催地
 第1回 2016年3月南三陸
 第2回 2017年2月宮城島
 第3回 2018年2月南三陸
 第4回 2018年12月 熊本
 第5回 2020年2月南三陸
 第6回 2021年12月 神戸
 第7回 2022年9月南三陸
 第8回 2023年3月和歌山
 第9回 2024年2月南三陸
 第10回 2024年12月阪神・淡路

信賴を築く語り部コミュニケーション
 兵庫・和歌山をはじめ各地から、語り部の活動を行う人々が集い、震災遺構との向き合い方、記憶を未来に伝える方法を現地視察とともに語り合い続けています

参加者の声
 「震災の現実と復興の現状を深く学べた」「語り部バスツアーも良かった」と参加者の心に響き、語りつづけることの重要性を知る貴重な体験として評価されています

詳細はホテル観洋HP・SNS等で随時お知らせいたします。

主催：「全国被災地語り部シンポジウムin東北」実行委員会
 南三陸ホテル観洋

【第11回全国被災地語り部シンポジウム in 東北 (宮城県南三陸)】 (2026年3月1日撮影)